

「がんに関する市民アンケート」
報告書



平成27年6月

宇 部 市

目 次

1	はじめに	1
2	アンケート調査の実施概要	2
3	アンケート結果	
1)	調査結果の概要	3～4
2)	各調査項目の結果	
	【基本項目】	5
	【がんに対する意識】	6～12
	・「がん」についての印象	
	・がん関連の一般的な情報の入手先	
	・がん検診の意義	
	・がん検診の受診歴と未受診理由	
	【がんに関する情報について】	13～19
	・「セカンド・オピニオン」の認識	
	・「セカンド・オピニオン」の必要性	
	・がんに関する医療機関や医療サービスの認識	
	・終末期を過ごしたい場所	
	・終末期を過ごしたい場所と宇部市での実現性	
	・「緩和ケア」についてのイメージ	
	【宇部市にあるがんに関する社会資源（施設やサービス）について】	20～21
	・医療資源、社会資源、制度についての認知度	
	【宇部市の取り組みについて】	22～24
	・「宇部市がん情報ハンドブック」の認知度	
	・「がん・なんでも相談窓口」の認知度	
	【自由記載意見】	25

1 はじめに

厚生労働省の平成25年の人口動態調査によると、全国の死因順位は、第1位「がん」、第2位「心疾患」、第3位「肺炎」となっており、がんで亡くなる割合は依然として30%前後で推移しています。

このような中、宇部市では、平成23年度から「がんを予防し、がん患者にやさしいまちをつくろう！！」をスローガンに、がん対策総合支援システムの構築に取り組み、推進してきました。

平成23年7月に「宇部市民のがんに関する意識と医療サービスについての認知度の把握」を目的にがんに関する市民アンケートを実施しましたが、その後の3年間に宇部市が実施してきたがんに関する取り組みの効果を評価するため、平成26年8月に再度同様の市民アンケートを実施しました。

このほど、その結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

最後に、今回のアンケート調査において、調査票の作成及び分析・評価について、ご指導、ご協力いただきました、山口大学大学院医学系研究科環境保健医学分野の助教であり、また、NPO 法人ヘルスポロモーションネットワーク代表である長谷亮佑先生に深くお礼申し上げます。

2 アンケート調査の実施概要

(1)調査対象

H26年7月25日現在、宇部市に住民票がある20歳～80歳未満の男女
2,000人（層化無作為抽出法・外国人住民を除く）

(2)実施時期 平成26年（2014年）8月

(3)調査方法 質問紙郵送法

(4)回収結果

①回収数（回収率） 699人（35.3%） ※2000人配布中、宛先不明21人

②有効回収数（率） 699人（35.3%）

③分析対象 質問ごとに必要な回答が得られているデータを分析した

④平均年齢と標準偏差 55.84±15.62 57.0±15.1歳

中央値61（21－78）歳

⑤性・年齢別回収数と回収率

性・年齢		標本数	回収数	回収率	性・年齢		標本数	回収率	回収率
男 性	20～29歳	139	13	9.4%	女 性	20～29歳	129	20	15.5%
	30～39歳	177	35	19.8%		30～39歳	172	54	31.4%
	40～49歳	148	31	20.4%		40～49歳	157	70	44.6%
	50～59歳	166	42	25.3%		50～59歳	174	65	37.4%
	60～69歳	208	76	36.5%		60～69歳	227	114	50.2%
	70～79歳	121	69	57.0%		70～79歳	182	107	58.8%
合計		959	266	27.7%	合計		1041	430	41.3%

年齢不明 3人

(5)結果の集計・分析

統計解析ソフトウェア IBM SPSS Statistics 19.0 を使用した

3 アンケート結果

*本文中及びグラフにおいて、前回とは、H23年度のアンケート調査結果をいう。

1) 調査結果の概要

- ① 前回と同様に宇部市民 2,000 人を対象に「がん」に対する意識と医療・社会資源及び宇部市のがん対策に対する認知度に関するアンケートを実施し、699人(35.3%)から回答を得た。前回の回答数は、704人(35.5%)でほぼ同数であり、男性より女性が多く、また年代が高くなるほど増加することは、前回と同じ傾向であった。
- ② 85%の人は身近な人のがんに接しており、約90%の市民が「がん」を「怖いと思う」または「どちらかといえば怖いと思う」と感じている。理由としては、「がん」が「死に至る」「痛みなどが出る」「治療費が高額になる」などが上位を占め、20代～40代では、「仕事を長期間休むか辞めざるをえない」の回答も多い。
- ③ 「がん」に関する情報は、テレビ・ラジオ、新聞、家族・親戚、医療機関職員の順で多く、身近な人を通じて情報収集している。インターネットの活用は20代～40代に多く、60代～70代では少ない。
- ④ がん検診の必要性は認識されており、2年以内にごがん検診を受けた人は51.6%で、前回(48.7%)よりは増えているが、まだ少ない状況である。受けていない理由としては、「時間がないから」「経済的に負担になる」「定期受診しているから」などが多かった。
- ⑤ がんに関する一般的な情報として、「セカンド・オピニオン」の認知度は、「よく知っている」「言葉だけ知っている」が80.8%と前回(74.6%)より増えている。また、医療サービス等の認知度については、「よく知っている」と回答した市民が、緩和ケア(ホスピス)病棟41.1%、在宅緩和ケア27.0%、がん診療連携拠点病院16.9%、がん相談支援室13.3%であり、どの項目も前回より増えている。
- ⑥ がんで治ることが難しいと告げられた場合の療養生活について、37.6%の市民が自宅療養後緩和ケアに入院を希望しており、自宅療養後医療機関に入院16.2%、最後まで自宅療養7.5%であり、61.3%の市民ができるだけ自宅療養を望んでいる。また、希望に沿った療養生活が、宇部市内の施設やサービスを利用して実現できると思う人が28.1%で前回(22.1%)より増えている。
- ⑦ 緩和ケアのイメージとして、「十分に知っていた」17.5%で前回(15.2%)より増えているが、「終末期の患者だけを対象とする」43.4%、「限られた場所のみで行われる」27.2%と多くの市民が誤った理解をしている。

- ⑧ 宇部市内の社会資源（施設やサービス）の認知度については、がん診療連携拠点病院、緩和ケア（ホスピス）病棟が「利用したことがある」「知っている」を合わせると50%を上回った。患者会の認知度は低く、多くの市民が知らないでいる。
- ⑨ 宇部市の取り組みの一つである「がん情報ハンドブック」については、91.1%の市民が「持っていない」「見たことがない」と回答しており、多くの市民が存在を知らないでいる。持っている人の入手方法は、医療機関が多く、次に行政機関、ホームページの順であった。役に立ったページは、「早期発見」「がん相談窓口」「治療にかかる費用」の順であった。
- ⑩ 「がん・なんでも相談窓口」の認知度は低く、80.9%の方が知らないと回答している。
- ⑪ 市民に対し、宇部市の医療資源・社会資源・制度や「がん・なんでも相談窓口」の認知度を高める取り組みが求められる。

【まとめ】

今回のアンケートは、平成23年度から3年間の「がん患者に優しいまちづくり」事業の取り組みの評価を行うために実施したものである。

結果をみると、多くの市民は、「がん」に対する不安が大きいことがわかった。しかし、本市の受診率は低く、不安が大きいからこそがん検診を受診し、がんが発見されても早期治療を受けることにより不安軽減や治療につながることをもっと啓発していく必要がある。

また、宇部市内の医療機関、施設やサービスなどの社会資源については、前回より認知度が上がってきているが、まだ50%程度であり、十分とはいえない状況である。また、本市独自の「がん情報ハンドブック」や「がん・なんでも相談窓口」の認知度についても低い状況であった。

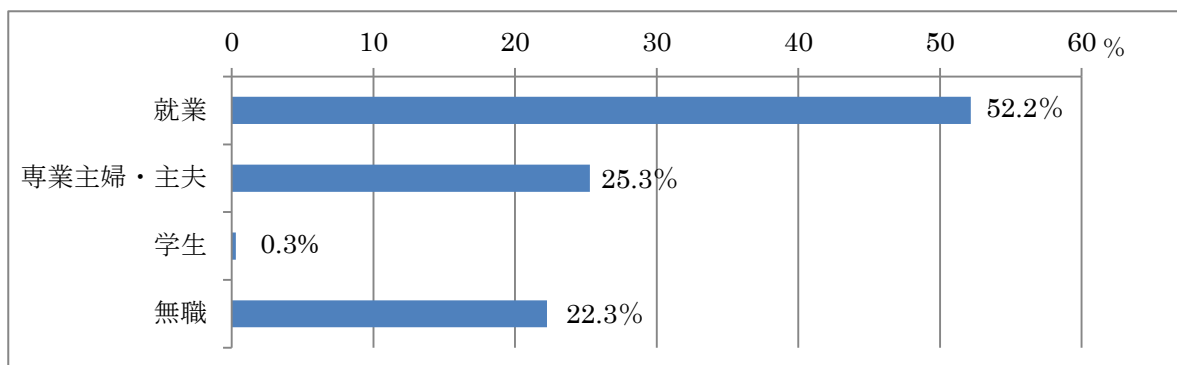
市民ががんについて安心して相談ができ、療養生活が送れるよう、「がん・なんでも相談窓口」や宇部市内にあるサービスの情報提供に努める必要がある。

今後も、市民のがんに対する不安軽減・がん検診の受診率向上を目指すとともに、がんに関する様々な社会資源の情報提供に努め、がんになっても安心して暮らすことのできる「がん患者に優しいまちづくり」を推進していきたい。

2) 各調査項目の結果

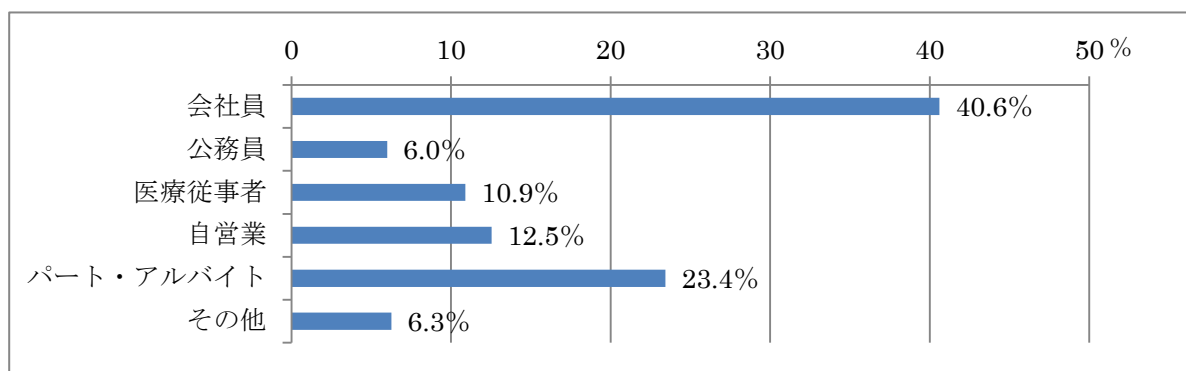
【基本項目】

あなたは就業していますか。

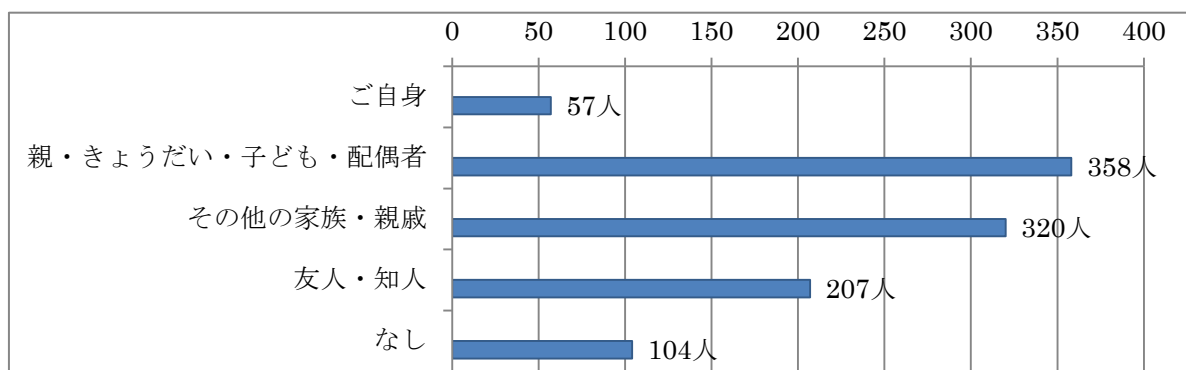


無回答 7人

あなたの職業はなんですか。(就業者の職業)



あなた自身を含め、家族、親戚や親しい友人など身近な人で、「がん」にかかった人がいますか。(複数回答)

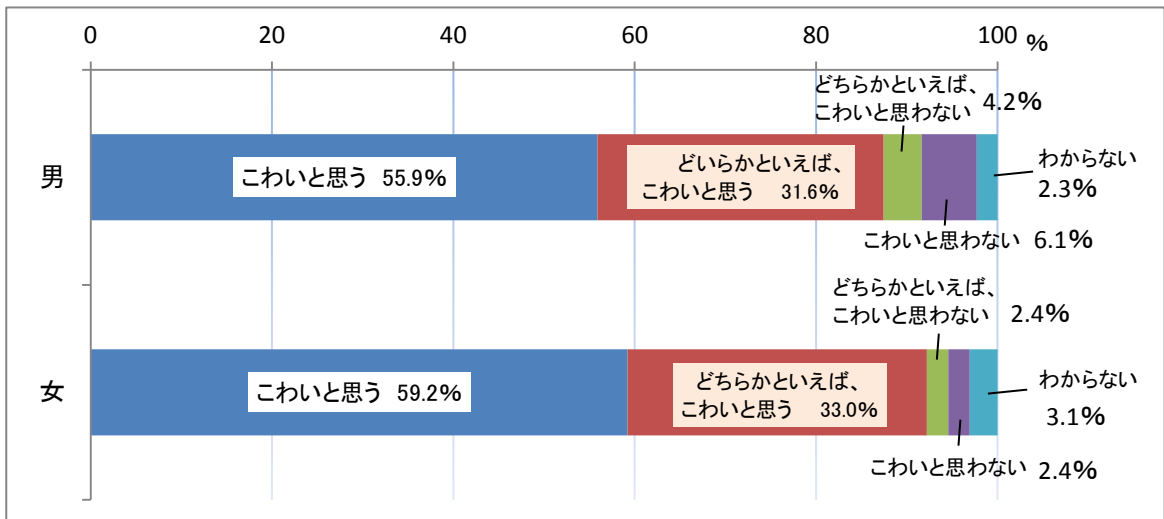
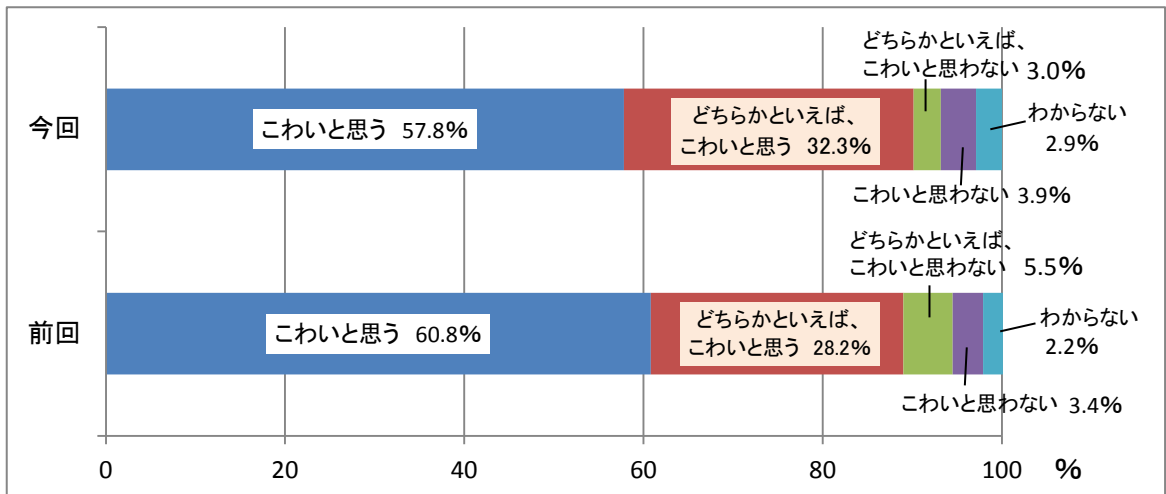


無回答 6人

自分自身を含め、身近な人が「がん」にかかった人がいると答えた人は85.0% (589人/693人中) あり、多くの方が身近に「がん」を感じる機会があった。

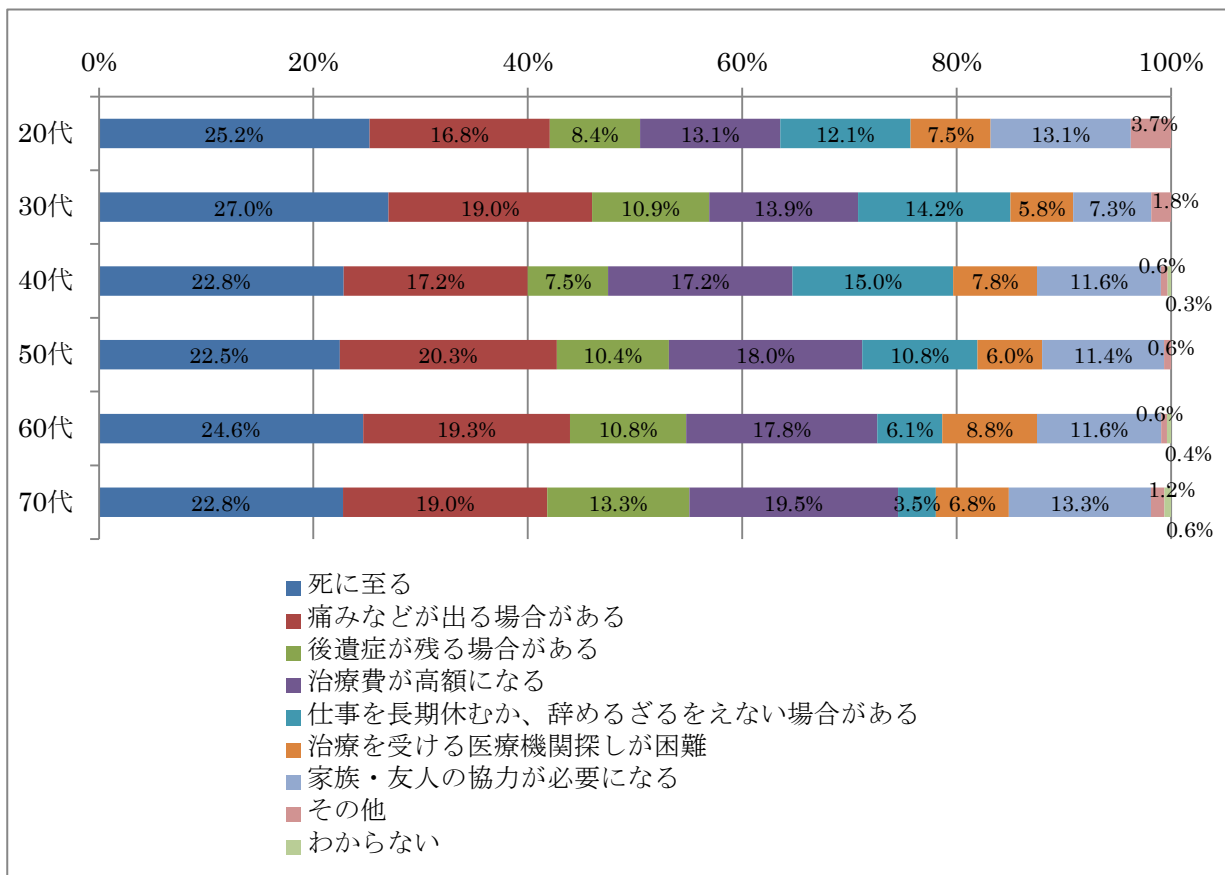
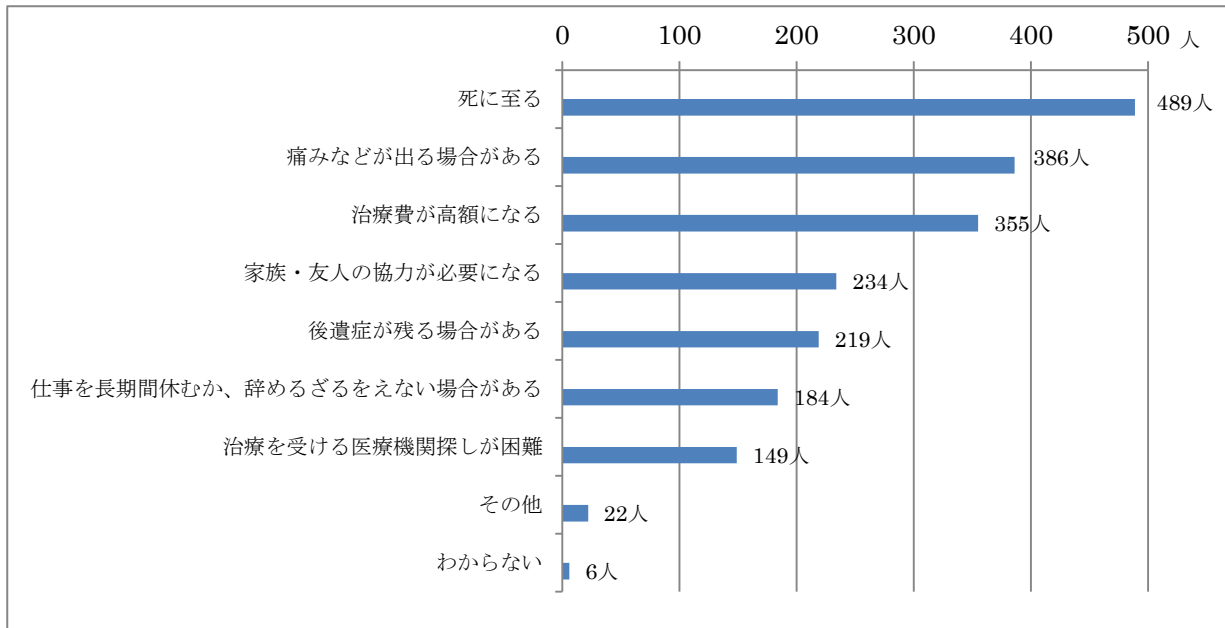
【がんに対する意識】

あなたは、「がん」をこわいと思いますか。



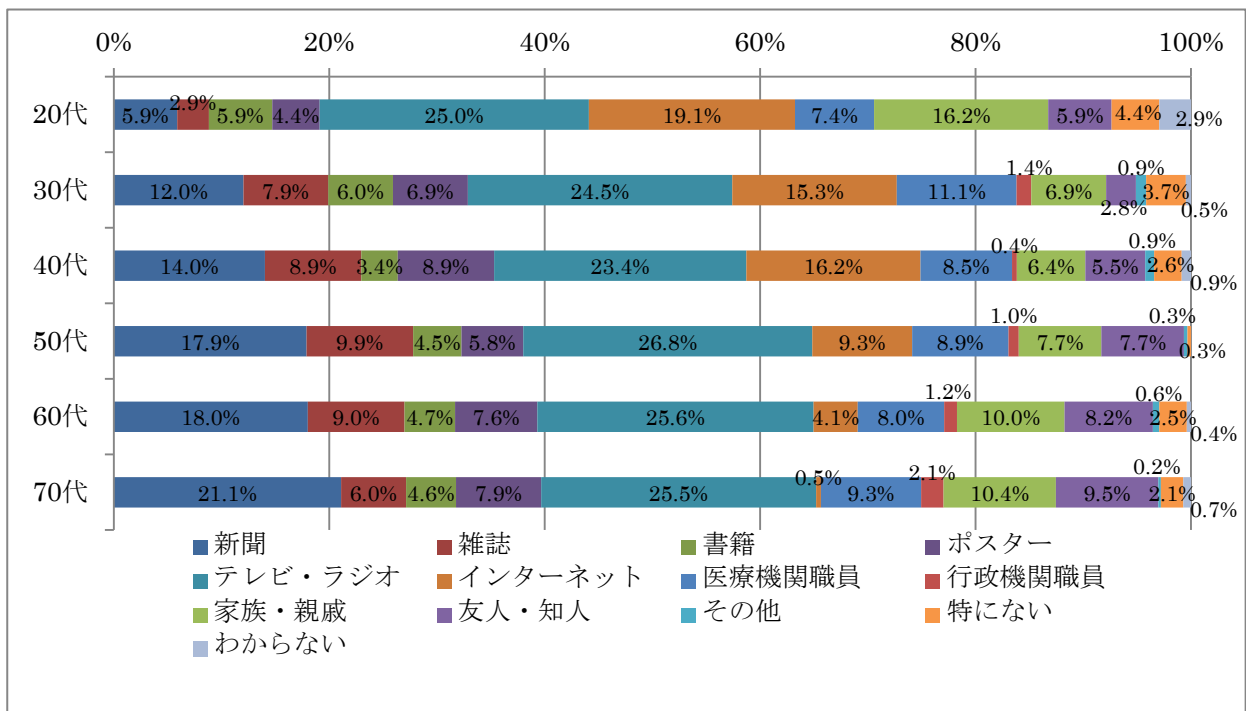
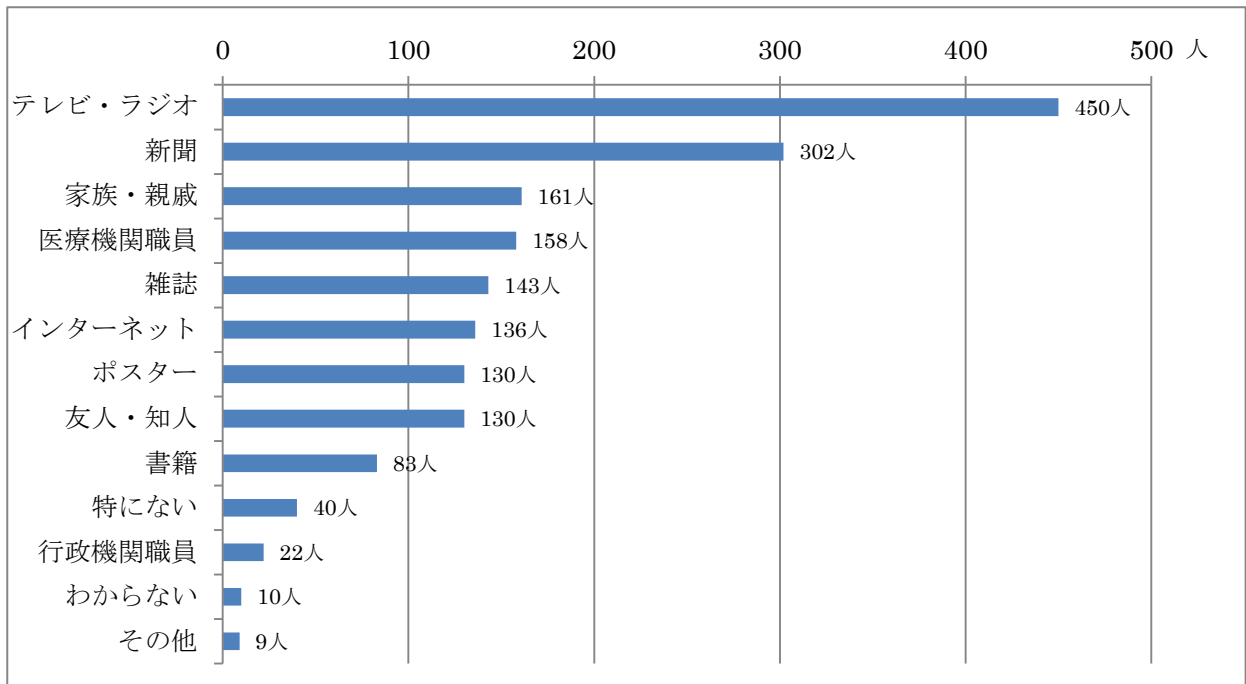
「こわいと思う」「どちらかといえばこわいと思う」と答えた人は、90.1%で、前回の89.0%とほぼ同じであった。男女別では、「こわいと思う」「どちらかといえばこわいと思う」と答えた人は男性より女性に多く、「どちらかといえばこわいと思わない」「こわいと思わない」と答えた人は男性が多かった。

あなたが、「がん」をこわいと思う理由は何ですか。(前問で「がん」を「こわいと思う」「どちらかといえばこわいと思う」と回答した人が回答 複数回答)



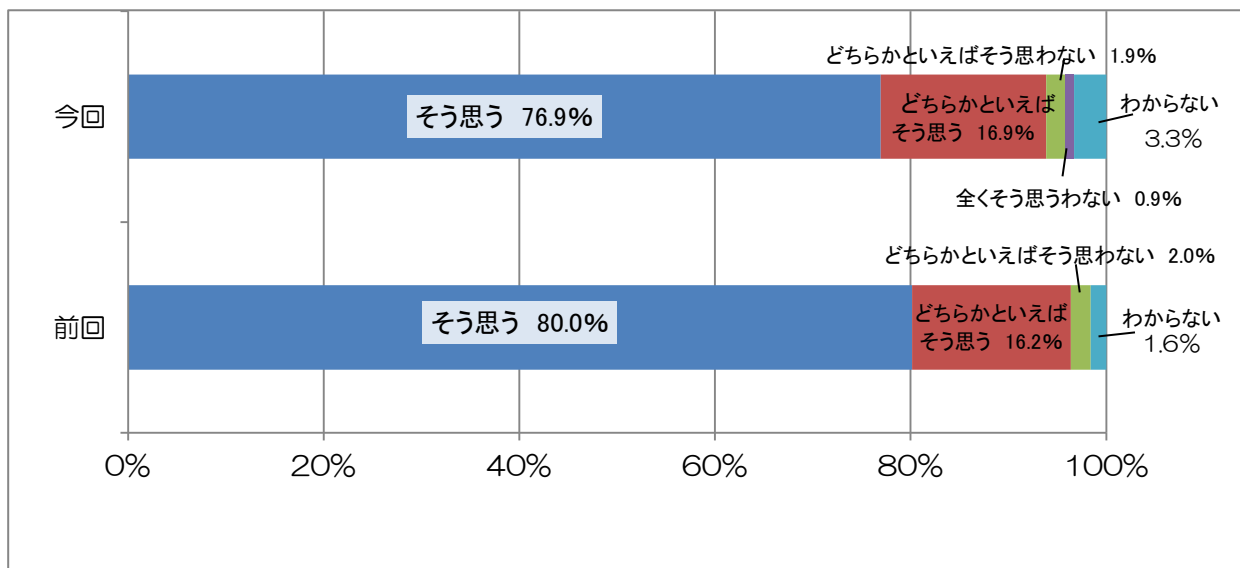
「死に至る」「痛みなどが出る場合がある」「治療費が高額になる」の順が多かった。20代～40代では、「仕事を長期間休むか辞めざるをえない場合がある」が多く、若い世代は、就労への危惧が大きいことがわかった。

あなたは、「がん」に関する一般的な情報（原因、予防など）について、
 どのようなところから情報を得ていますか。（複数回答）



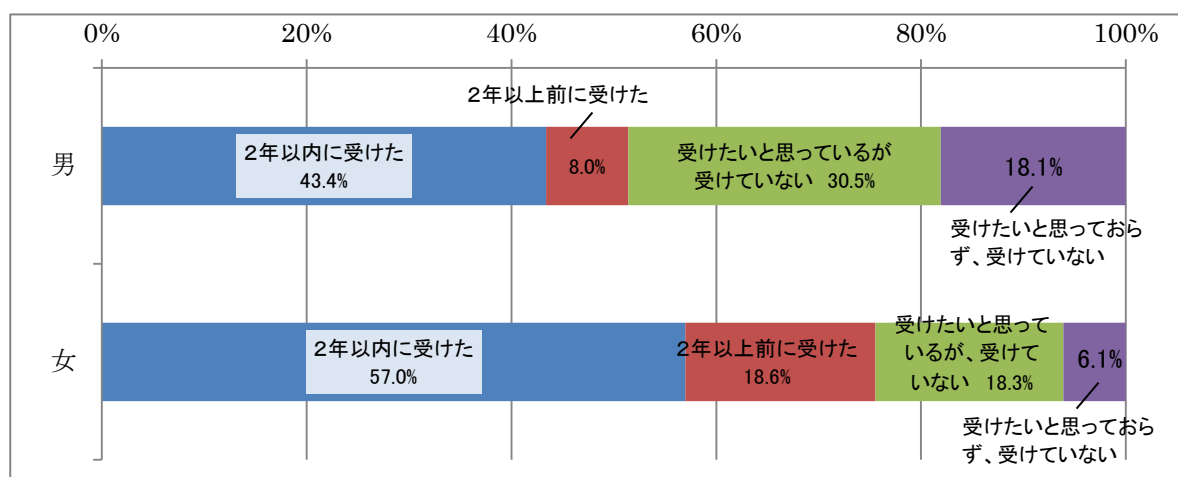
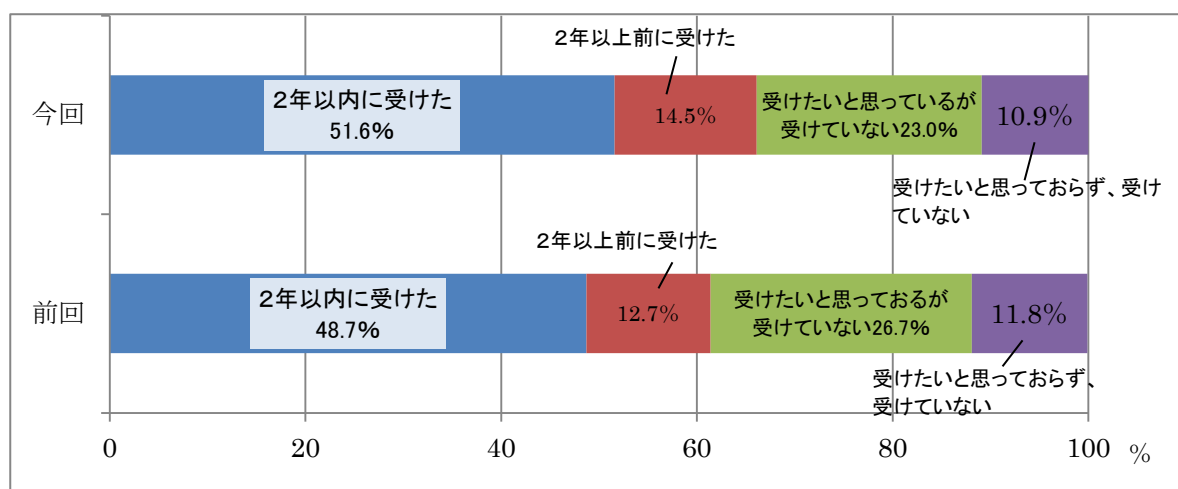
「がん」についての一般的な情報は、「テレビ・ラジオ番組」から得ている人が一番多く、次に「新聞」「家族・親戚」「医療機関職員」の順であり、身近な人を通じて情報収集していることがわかった。年代別では、50代～70代では「新聞」と答えた人が「インターネット」よりも多く、20代～40代は「インターネット」と答えた人が「新聞」よりも多く、年代により差がみられた。

がん検診は、「がん」の早期発見、早期治療につながる重要な検査だと思いますか。

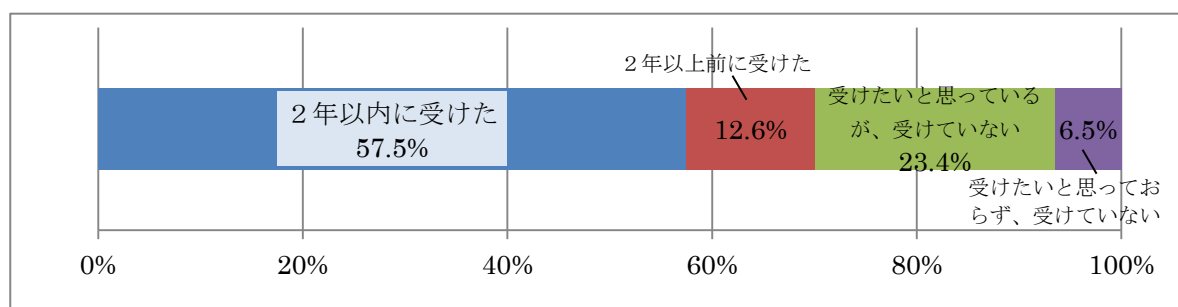


「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人が93.8%であり、前回96.2%より若干減っているが、がん検診の必要性は認識されている。男女別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人は、男性より女性に多いが、大きな差はみられない。

あなたは、がん検診を受けたことがありますか。

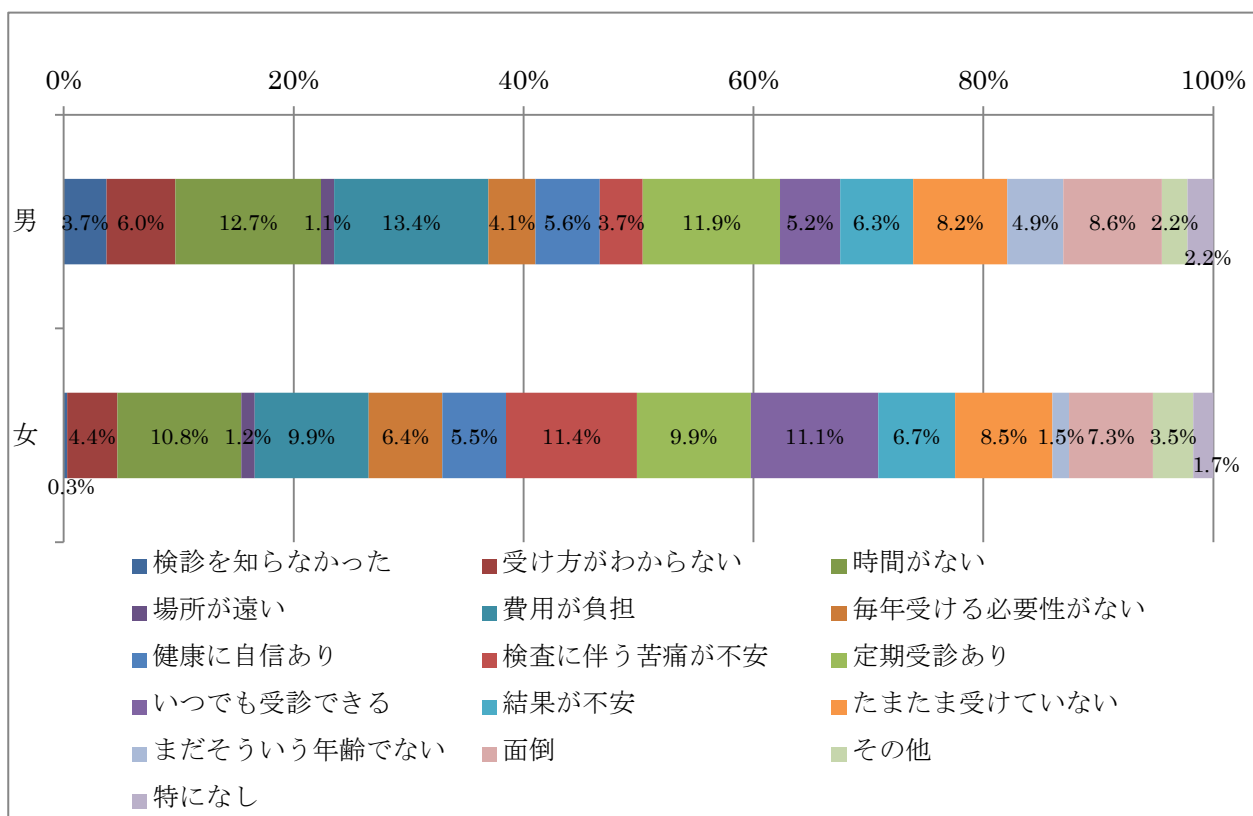
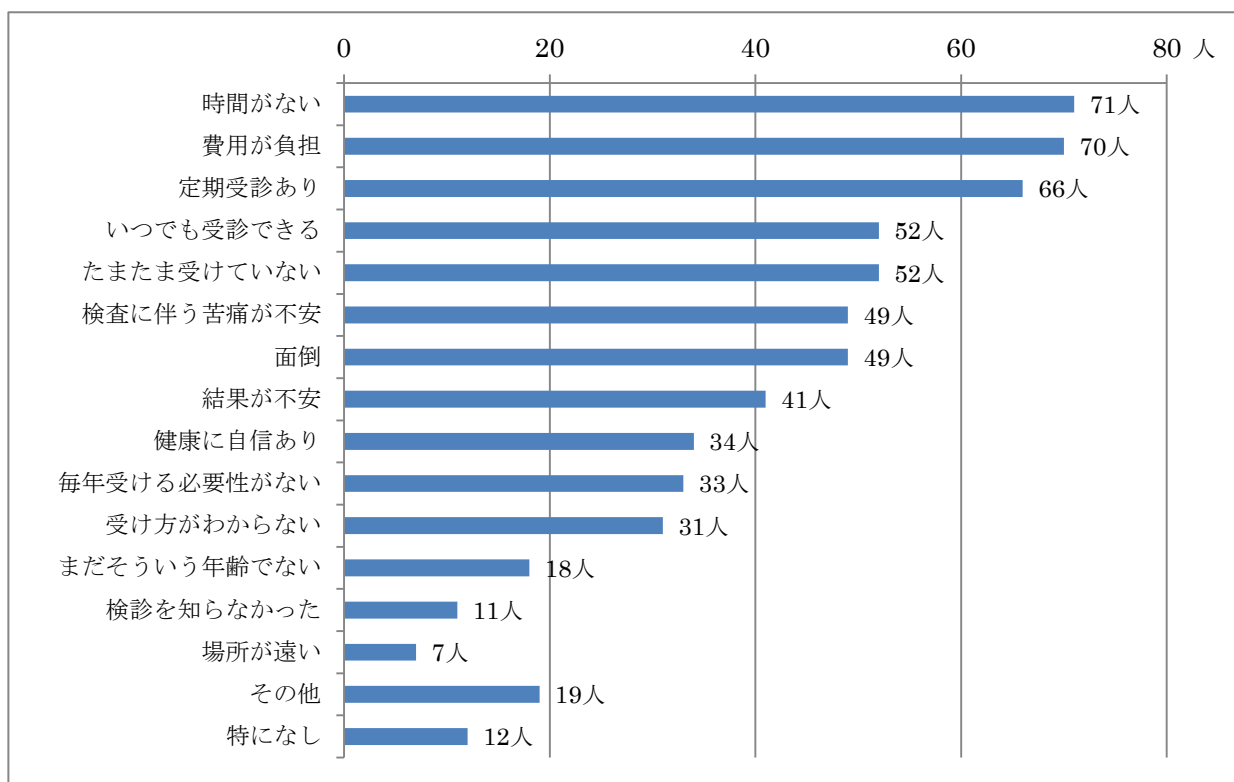


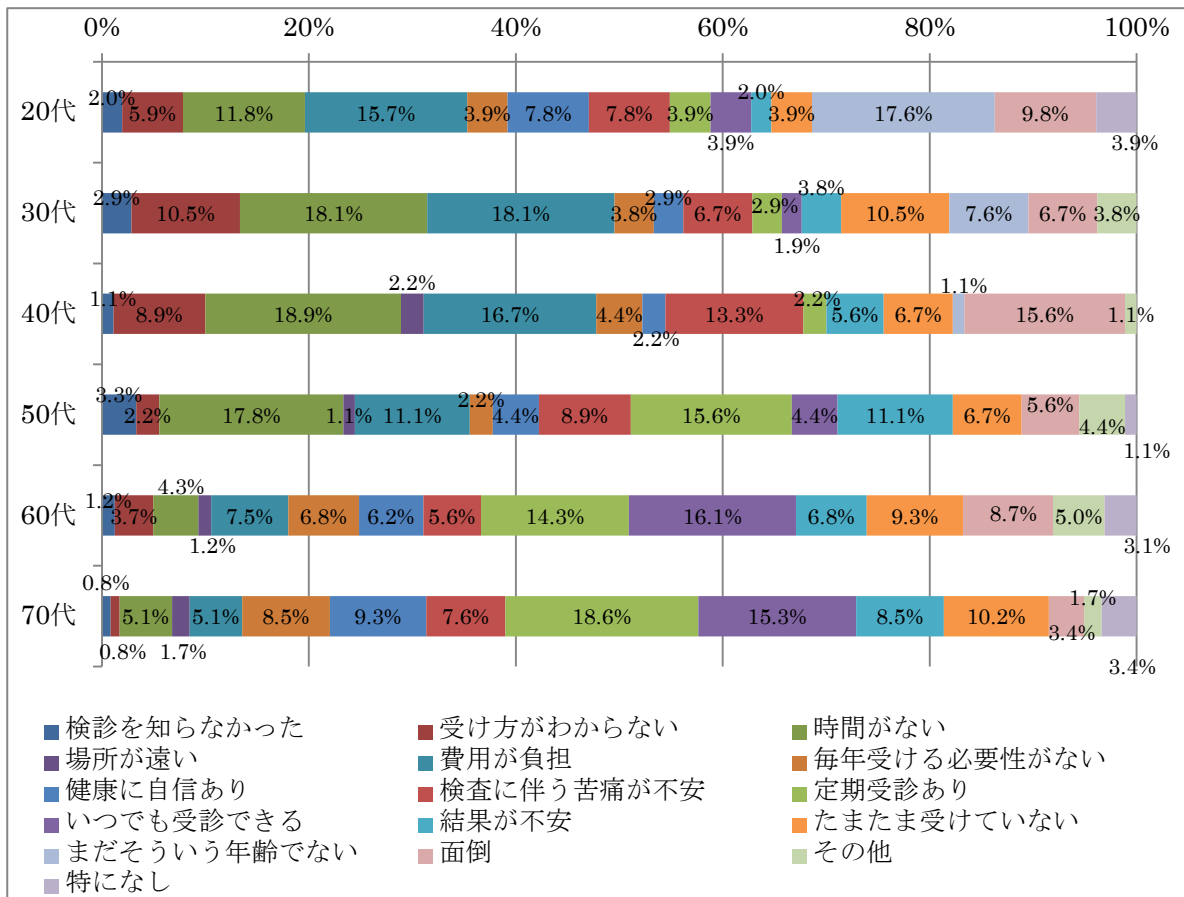
「検診が早期発見につながると思う人で、検診を受けている人」



がん検診を「2年以内に受けた」と答えた人は51.6%で、前回の48.7%より増えている。男女別では、女性の方が検診を受けている人が多い。また、身近にがんにかかった人がいる人で、2年以内に検診を受けた人は、身近にがんにかかった人がいない人よりも多い。また、前問で「がん検診が早期発見・早期治療につながると思う」と答えた人で、2年以内にがん検診を受けた人は57.5%で、必要性は感じているが受けている人は少ない。

最近、がん検診を受けない理由は何ですか。(前問で「2年以上前に受けたことがある」「受けたと思っているが、受けたことがない」「受けたと思っておらず、受けたことがない」と回答した人が回答。複数回答)

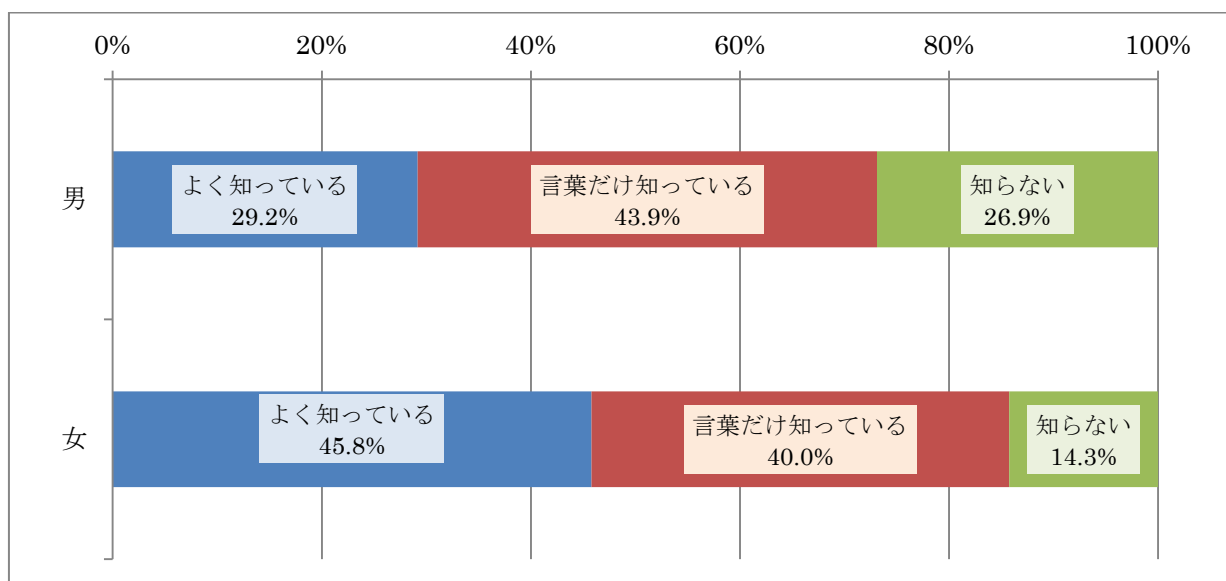
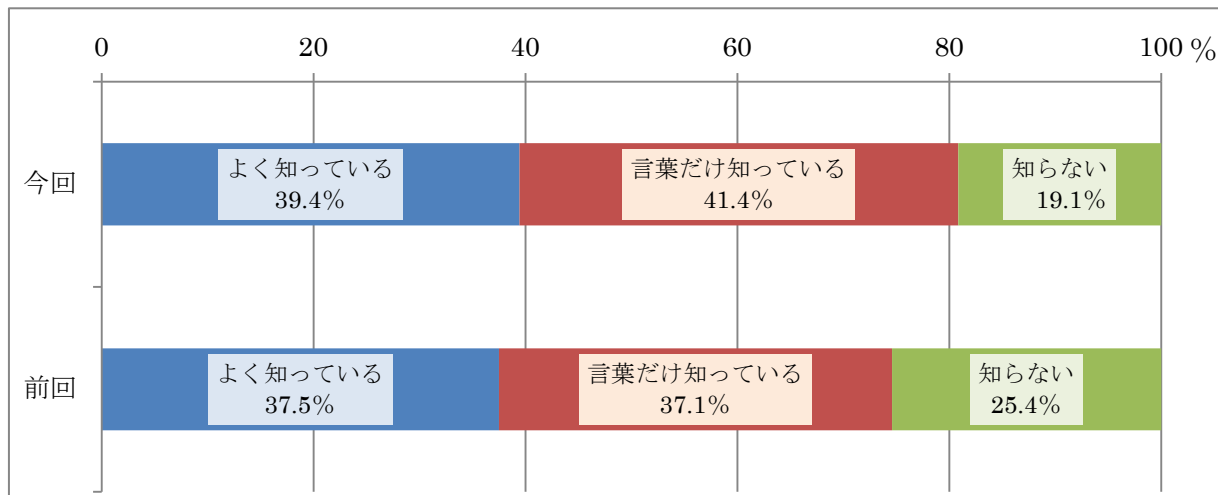




受けない理由として、全体としては「時間がない」「費用が負担になる」「定期受診している」が多かった。男女別では、男性が「費用が負担になる」「時間がない」「定期受診している」の順で多く、女性では、「検査に伴う苦痛が不安」「心配な時はいつでも受診できる」「時間がない」の順が多かった。年代別では、20代～40代では「時間がない」「費用が負担」が多く、60代～70代では「定期受診している」「心配な時はいつでも受診できる」が多かった。また、20代～30代では「まだそういう年齢ではない」との回答も多かった。

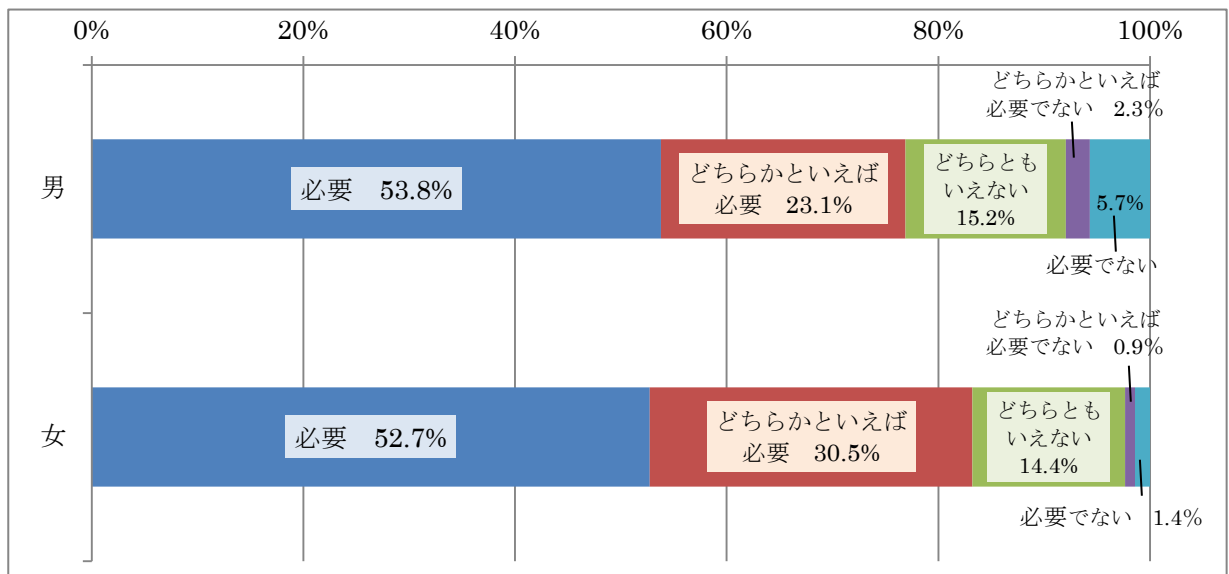
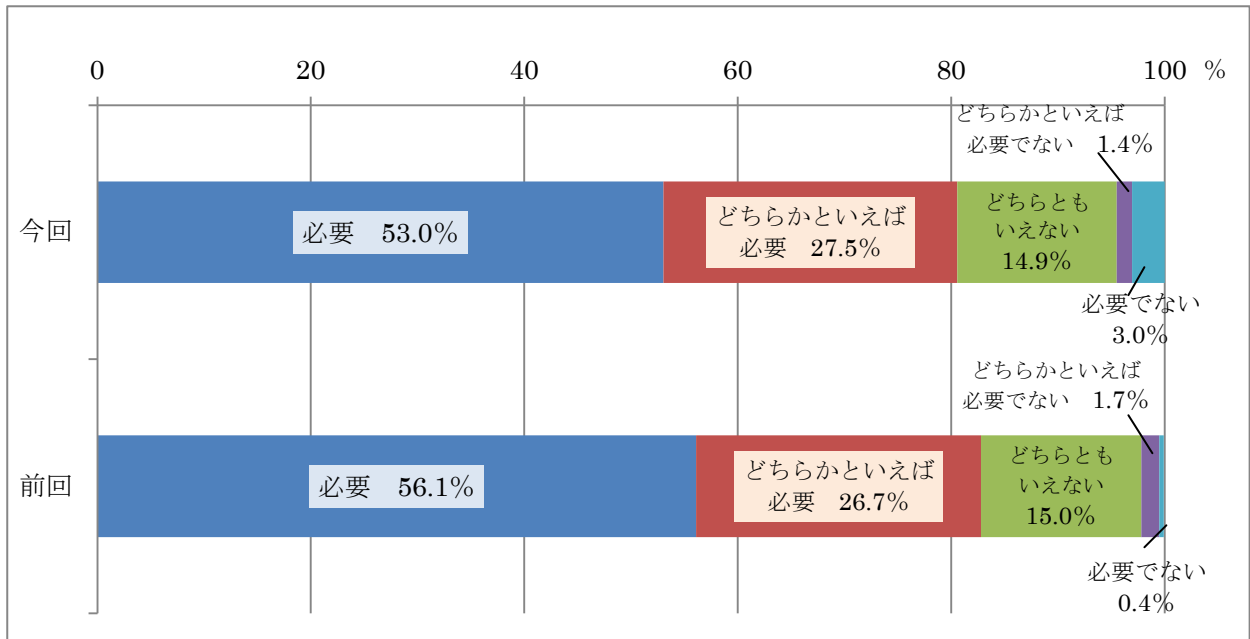
【「がん」に関する情報について】

あなたは、もしも「がん」と診断され治療を行う場合、「セカンド・オピニオン」という方法があることを知っていますか。



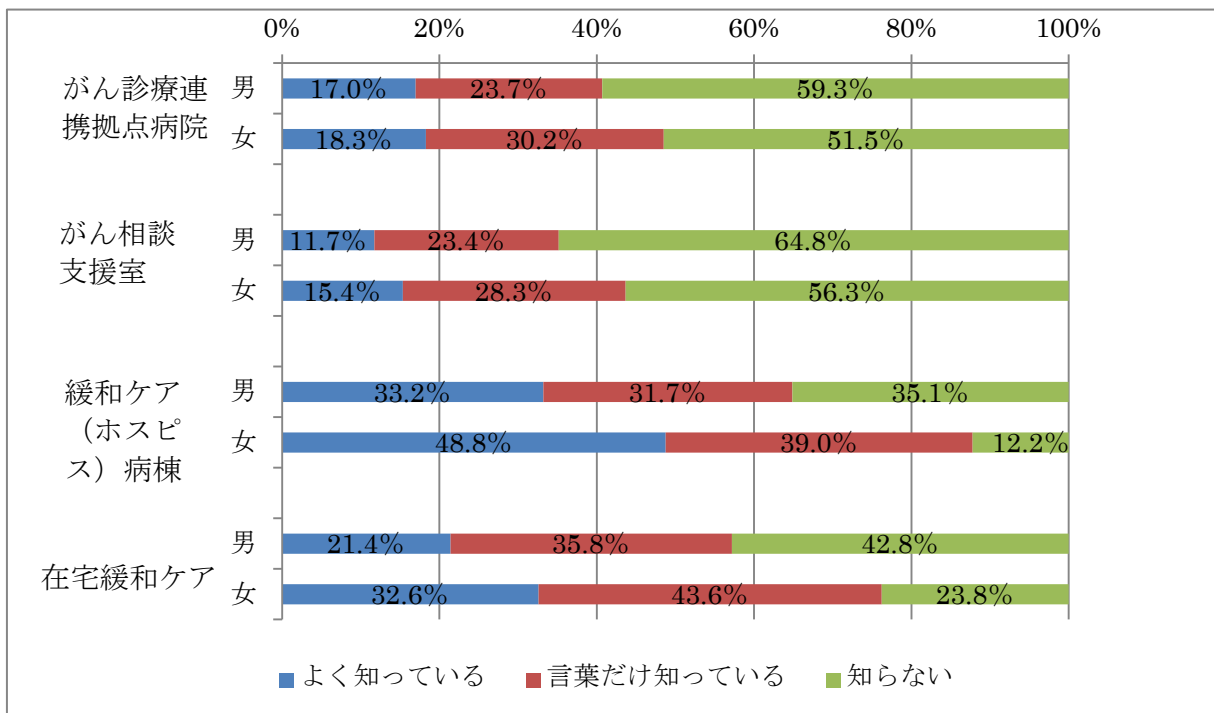
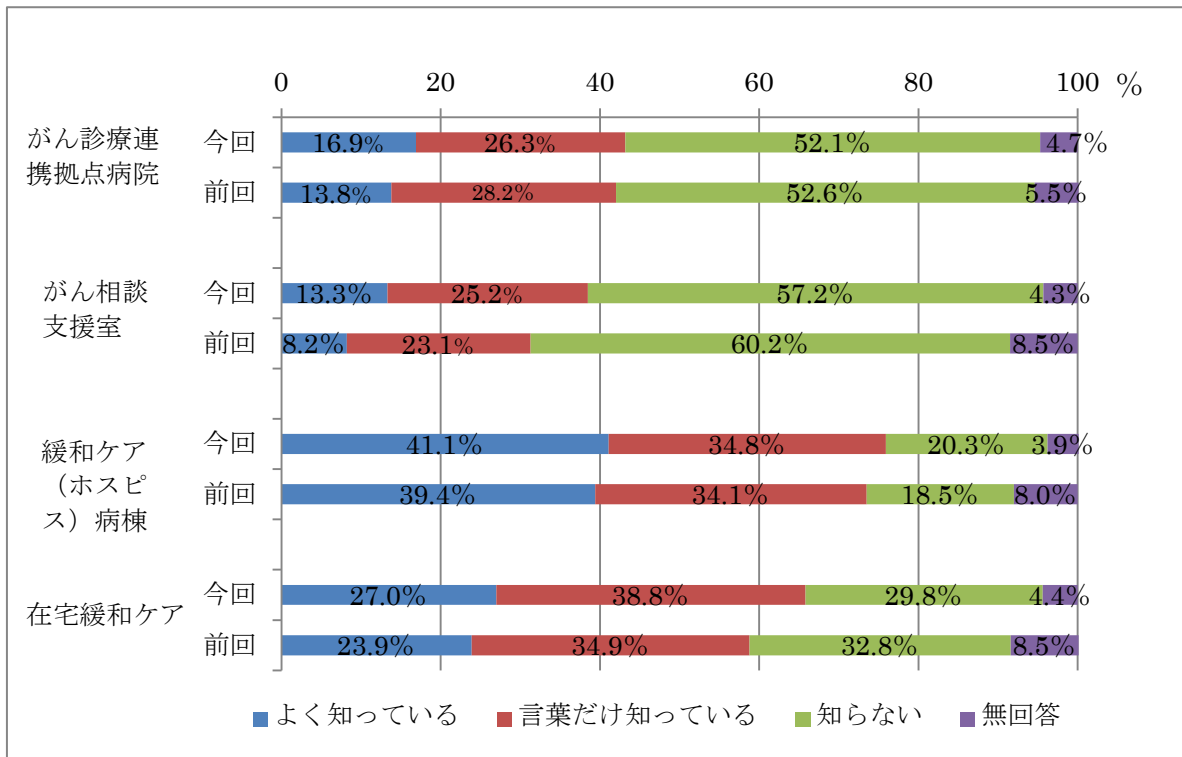
「よく知っている」と答えた人は39.4%、「言葉だけ知っている」と答えた人を合わせると80.8%で、前回より増えている。男女別では、男性よりも女性の方が「よく知っている」「言葉だけ知っている」と答えた人が多かった。

あなたは、もしも「がん」と診断され治療を行う場合、「セカンド・オピニオン」が必要だと思いますか。

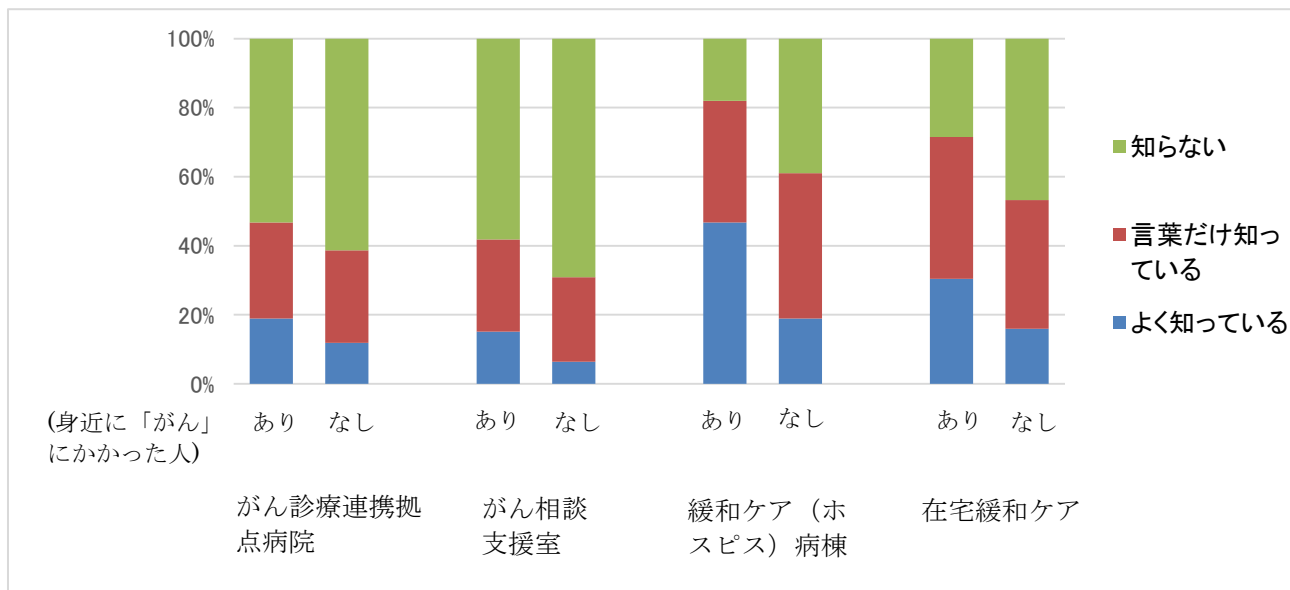


「セカンド・オピニオン」が「必要」「どちらかといえば必要」と答えた人は80.5%で、前回82.8%より、少し減っており、「必要ではない」と答えた人が、3.0%いる。男女別では、男性よりも女性が「必要」「どちらかといえば必要」と思っている人が多かった。

あなたは、「がん」に関する医療機関や医療サービスについて、どの程度知っていますか。

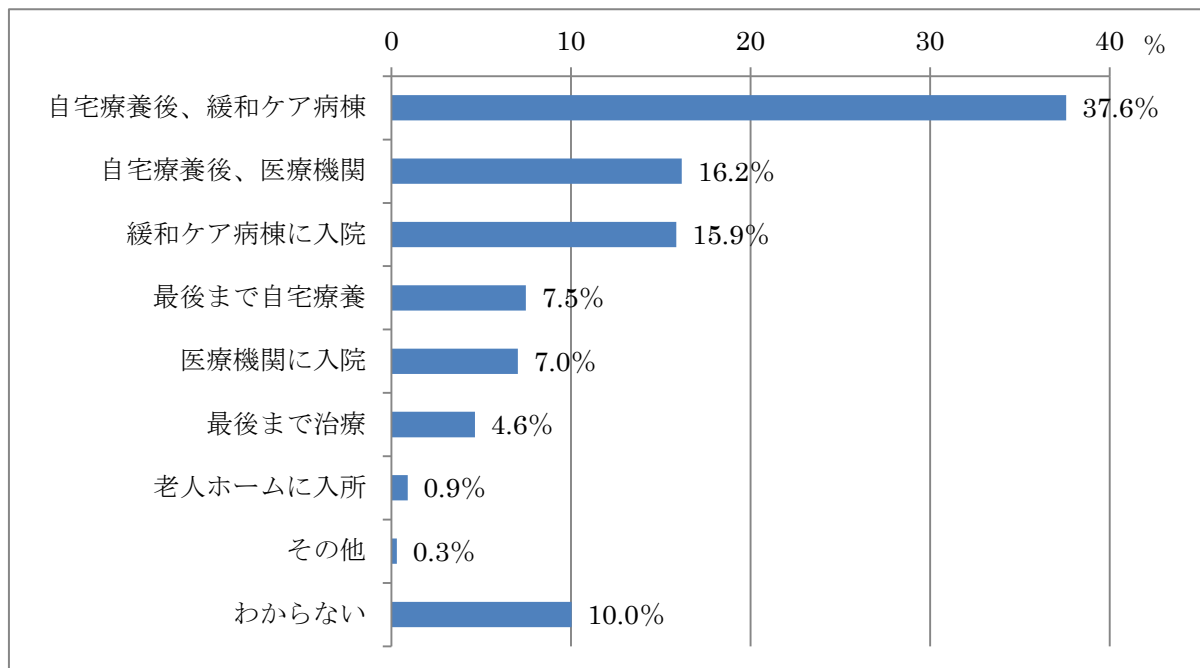


《身近にがんにかかった人がいる人の認知度》

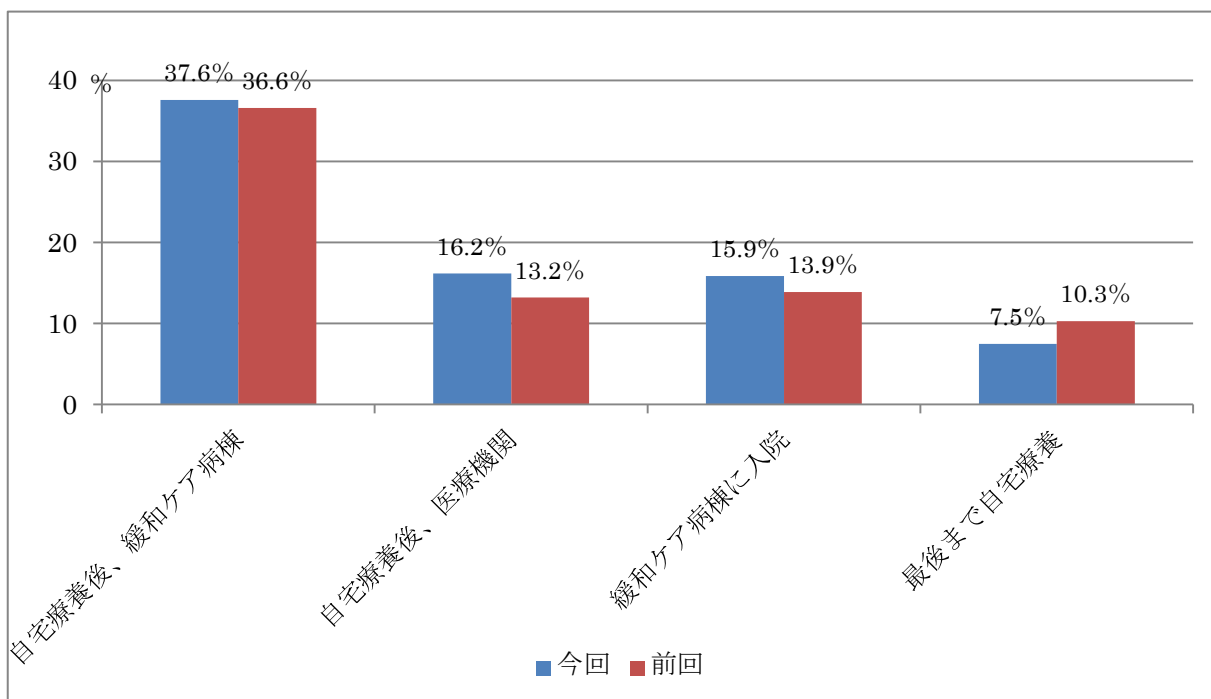


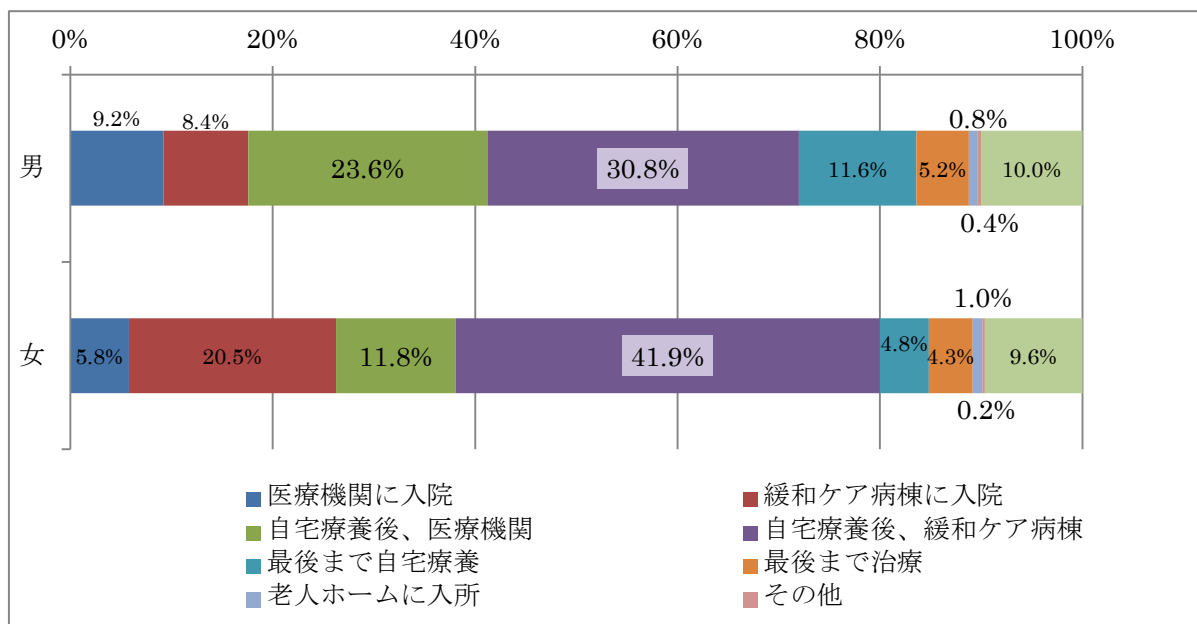
がんに関する4つの医療サービスの認知度について、「緩和（ホスピス）ケア」が多く、次に「在宅緩和ケア」「がん診療連携拠点病院」「がん相談支援室」の順が多かった。どの項目も前回よりも多くなっている。男女別では、女性の方が男性よりも「知っている」「言葉だけ知っている」と答えた人が多い。また、身近にがんにかかった人がいる人の認知度が高い。

あなたご自身が、がんで治ることが難しいと告げられた場合、療養生活はどこで送りたいですか。



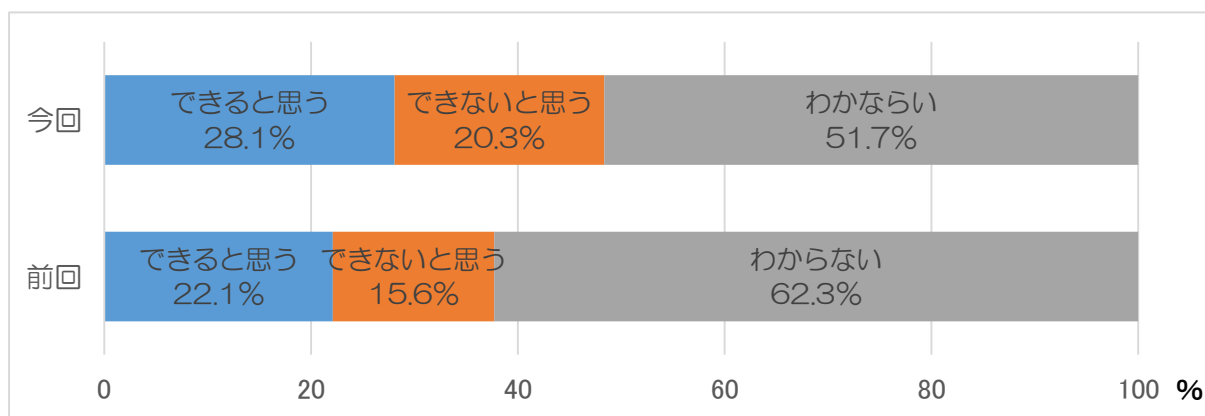
無回答 31人





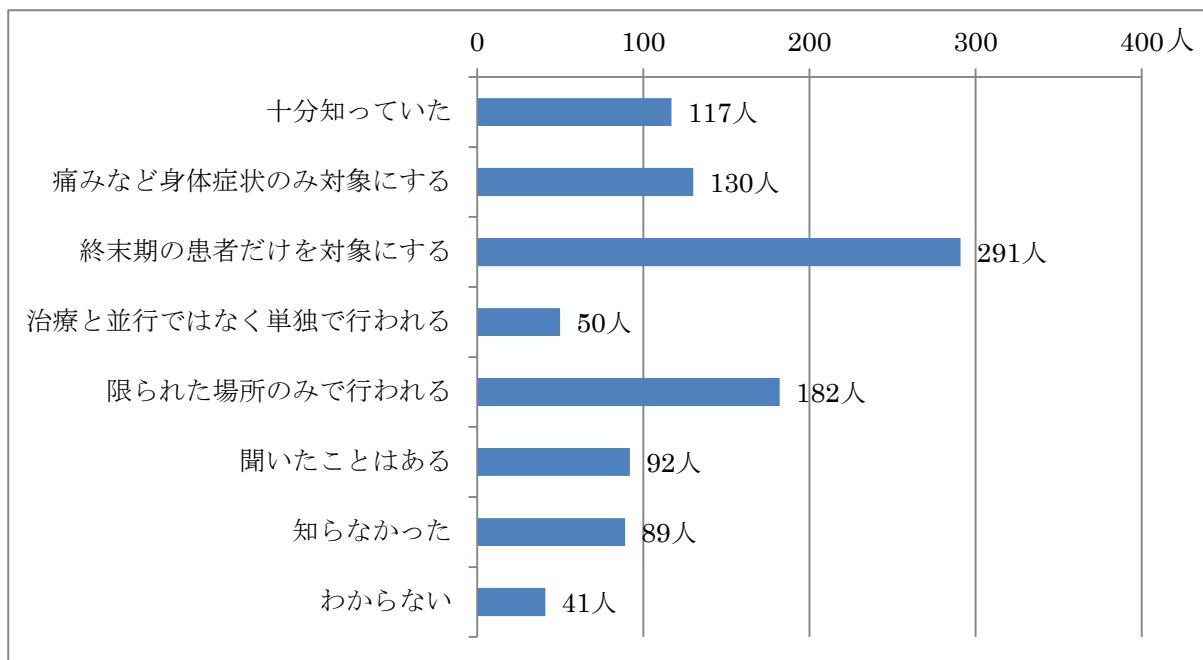
「自宅で療養後、緩和ケア病棟」と答えた人が 37.6%、次いで「在宅療養後、医療機関に入院」「緩和ケア病棟に入院」が多く、前回と同様であった。男女別では、男性の方が「自宅で療養後、医療機関に入院」「最後まで自宅で療養」が、女性よりも多い。

前問の回答のような、ご自身の希望にそった療養生活を、宇部市内の施設やサービスを利用して実現できると思いますか。

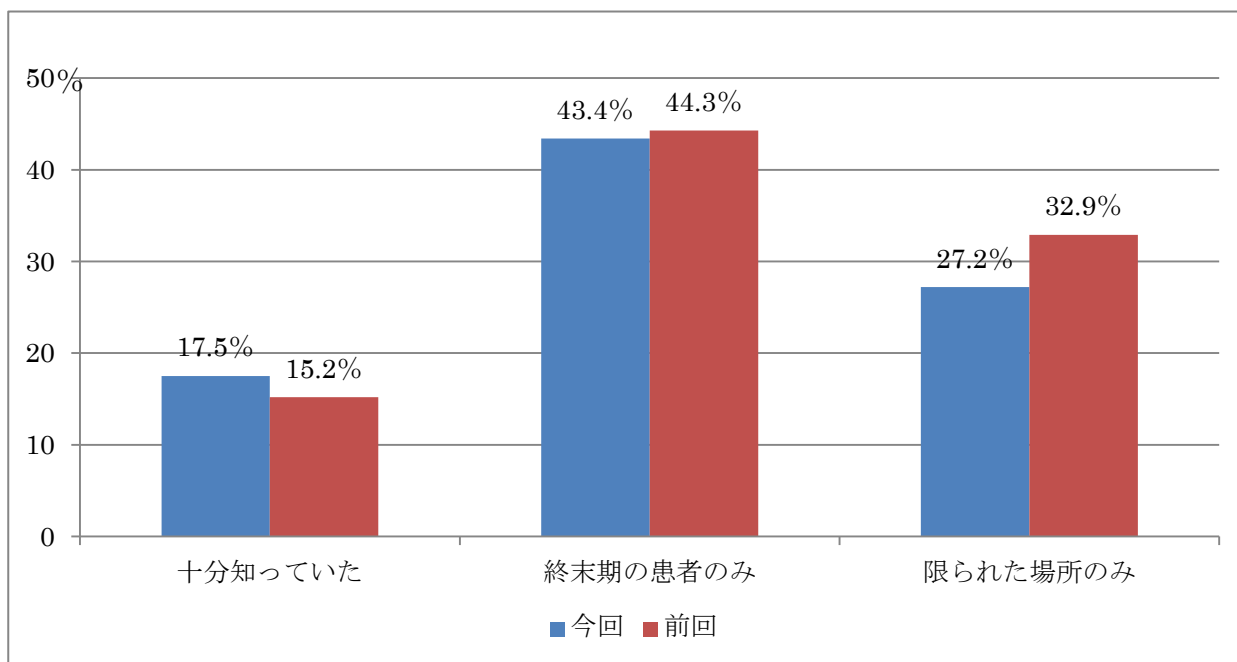


「できると思う」と答えた人が 28.1%で、前回 22.1%より増えており、「できないと思う」と答えた人も 20.3%で前回 15.6%より増えていることは、宇部市において希望に沿った療養生活の実現可能性を判断できる情報が増えていると言えるのではないか。しかし、「わからない」と答えた人が 51.7%で、まだ半数以上の方が、判断できないでいる。

「緩和ケア」について、あなたはどのように認識していますか。(複数回答)



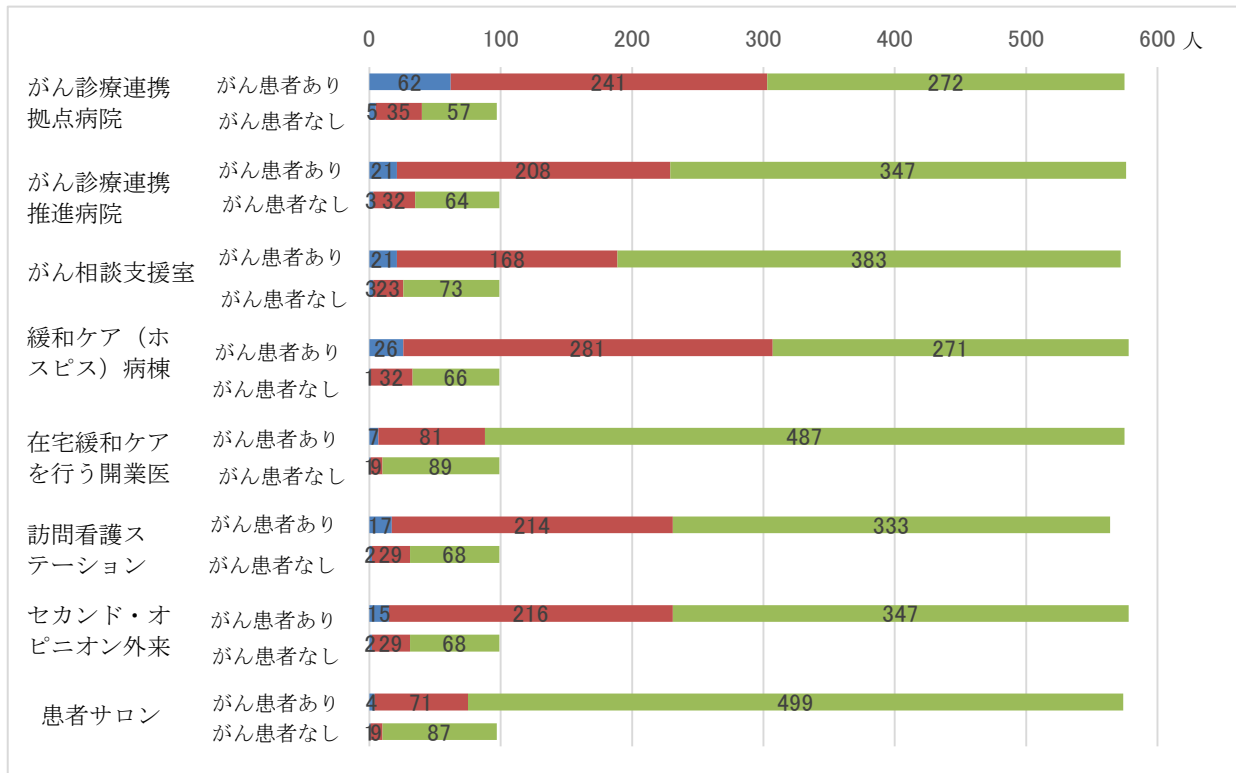
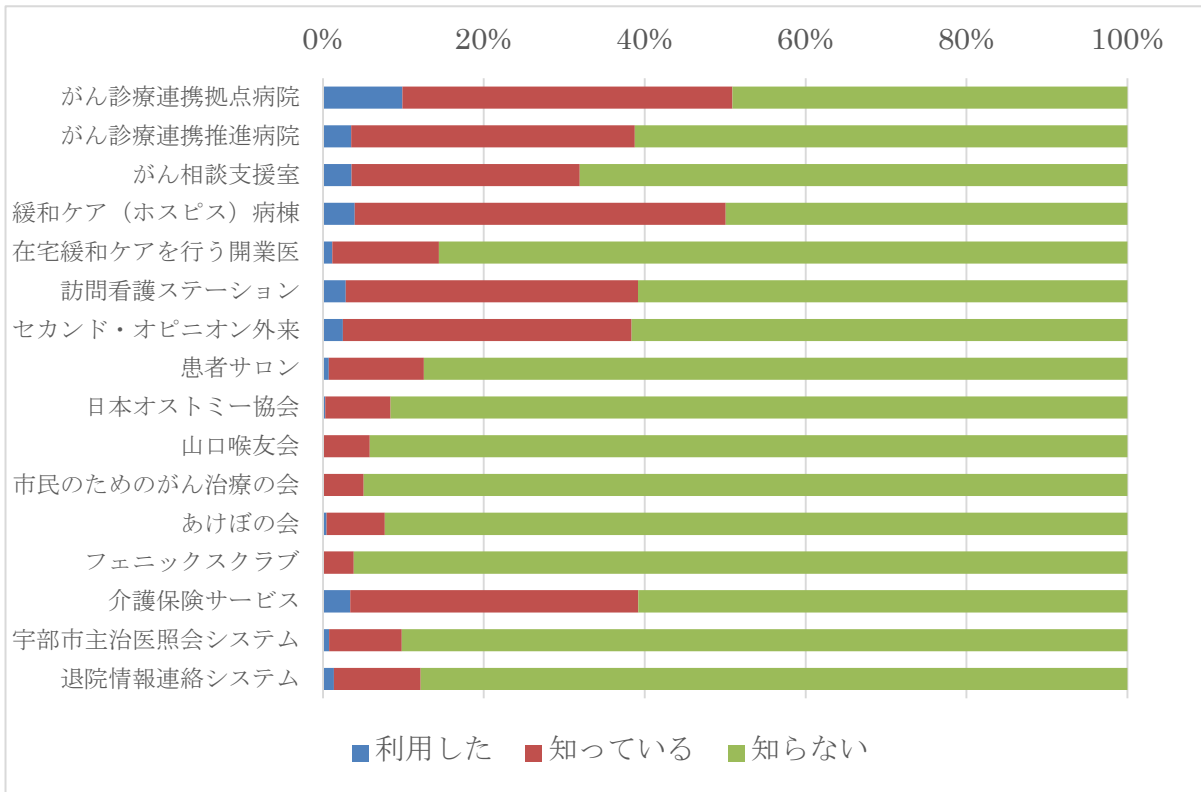
無回答 29人



「十分知っていた」と答えた人は 17.5%で前回 15.2%より増えており、「終末期の患者だけを対象」(43.4%)「限られた場所で行われたい」(27.2%)と答えた人が前回より減っていることは、理解がすすみつつあるといえる。

【宇部市にある「がん」に関するさまざまな社会資源（施設やサービス）について】

あなたは、次の医療資源、社会資源、制度について、どの程度知っていますか。



宇部市にある医療資源・社会資源・制度について前回は「知っている」人の割合はどの項目も50%以下だったが、今回は「がん診療連携拠点病院」と「緩和ケア（ホスピス）病棟」を「利用した」「知っている」を合わせてそれぞれ50%を上回った。

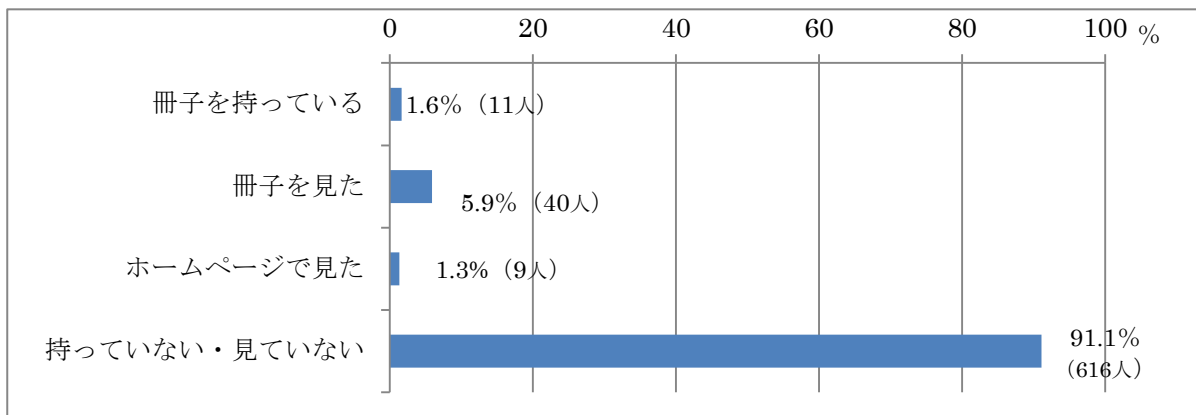
一番認知度が高かったのは前回、今回ともに「がん診療連携拠点病院」であった。

自分自身や家族ががんにかかったことがある人とそれ以外の人で認知度を比較すると、いずれも自分自身や家族ががんにかかったことがある人の方が「知っている」と答えた人の方が多かった。

【宇部市の取り組みについて】

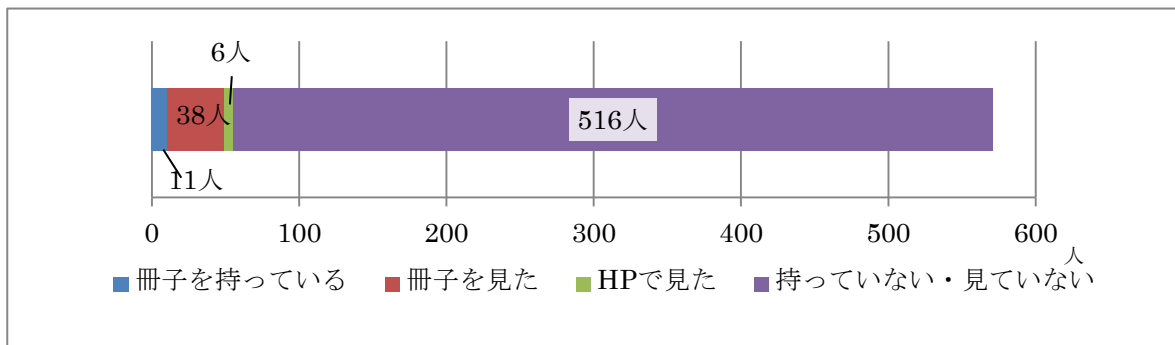
- ① 「宇部市がん情報ハンドブック」を知っていますか。
 ② 「ハンドブック」は、どこで入手、または見られましたか。(持っている、見たことがある、ホームページでみたと回答した人が回答)
 ③ どのページが役立ちましたか。(持っている、見たことがある、ホームページでみたと回答した人が回答 複数回答)

①

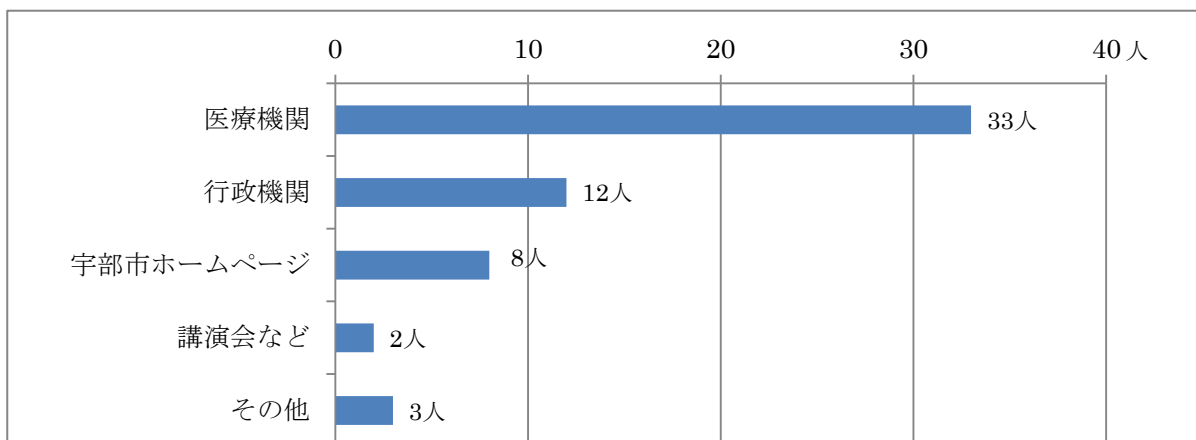


無回答 23人

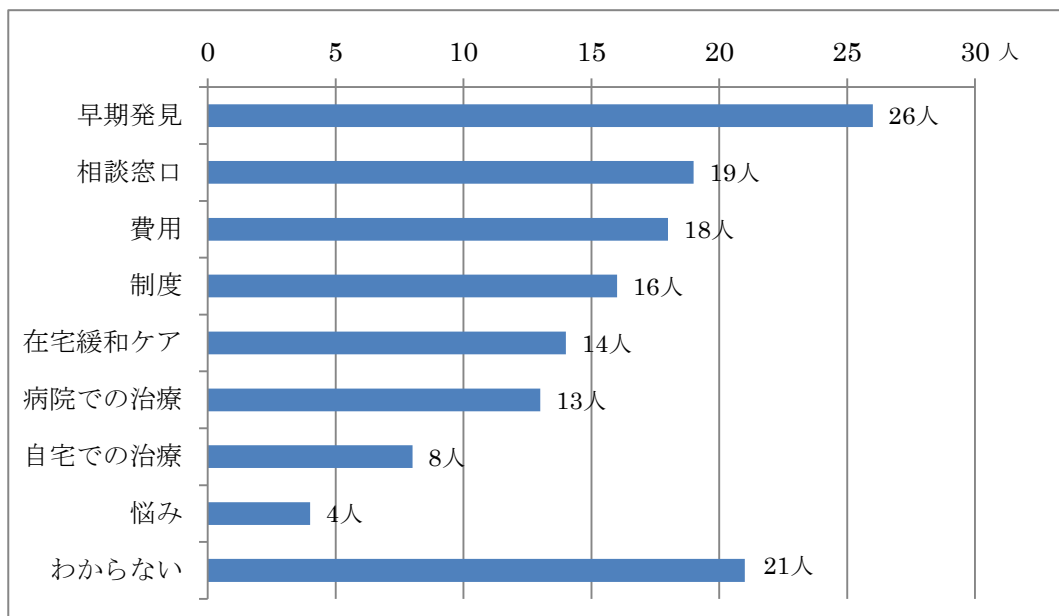
(身近にがんにかかった人で、「がん情報ハンドブック」を持っている人)



② (入手方法)



③ (役に立ったページ)

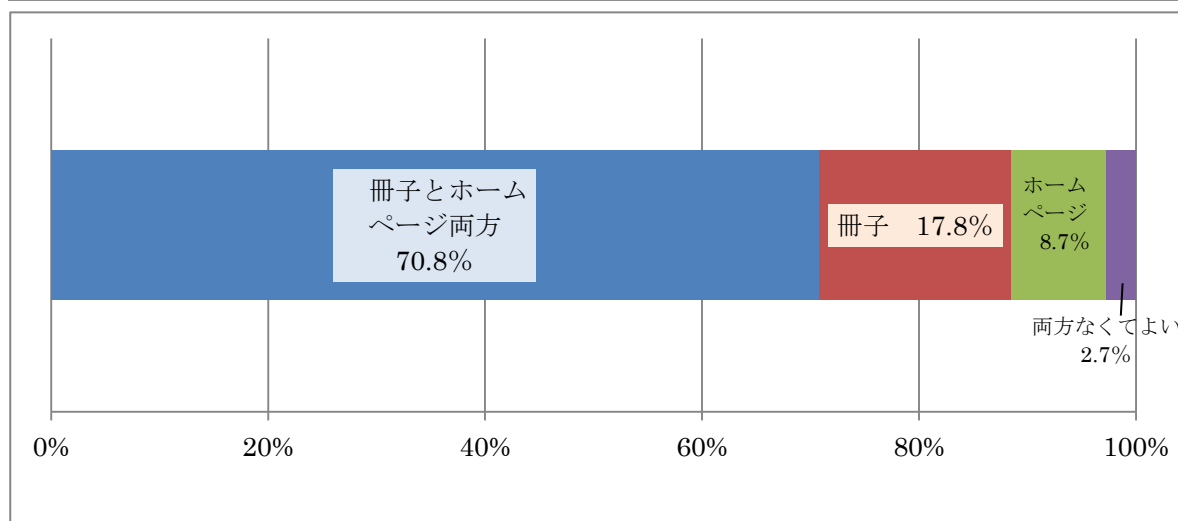


「持っていない」「見ていない」が91.1%を占めていた。自分自身や家族ががんにかかったことがある人でも、冊子を持っている人が少なかった。

持っている人の入手方法は、医療機関が最も多かった。

役に立ったページについては、「がんの早期発見のために」が一番多く、次に「がん相談窓口」「治療にかかる費用」の順で多かった。

「宇部市がん情報ハンドブック」のようなもの（冊子、ホームページ）が、今後もあった方がよいと思いますか。

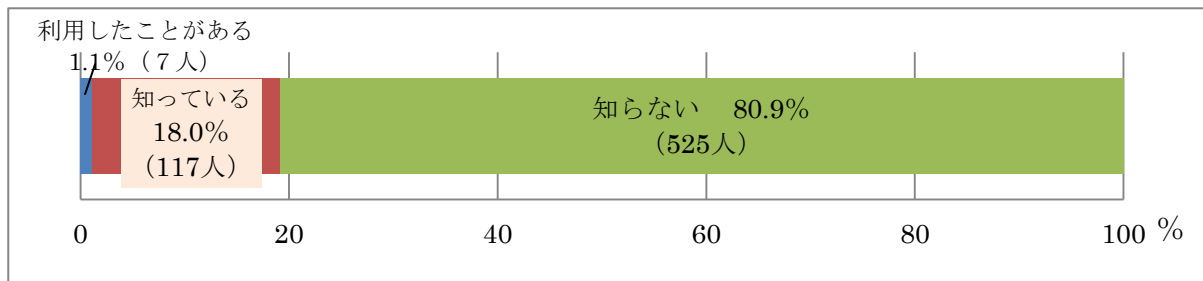


無回答 80人

「何らかのかたちであった方がよい」と回答した人が97.3%おり、がんについての情報提供を望んでいる人が多いことが分かる。

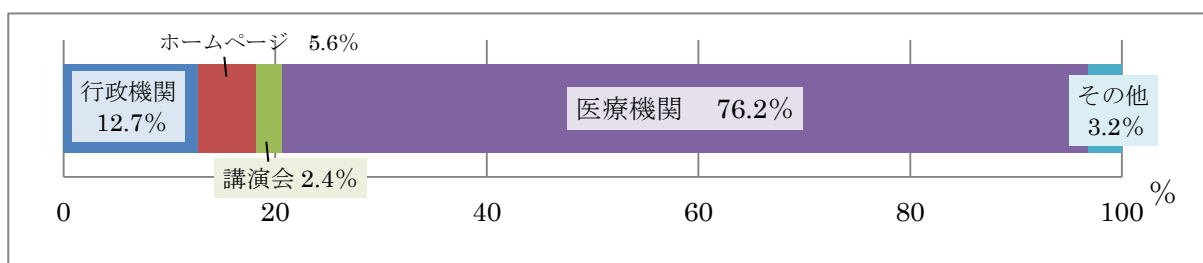
- ① 「がん・なんでも相談窓口」を知っていますか。
- ② どこで知りましたか。(利用したことがある、知っているが利用したことがないと回答した人が回答)
- ③ 相談の目的(内容)は何でしたか。(利用したことがある人が回答 複数回答)

① (知っていますか)

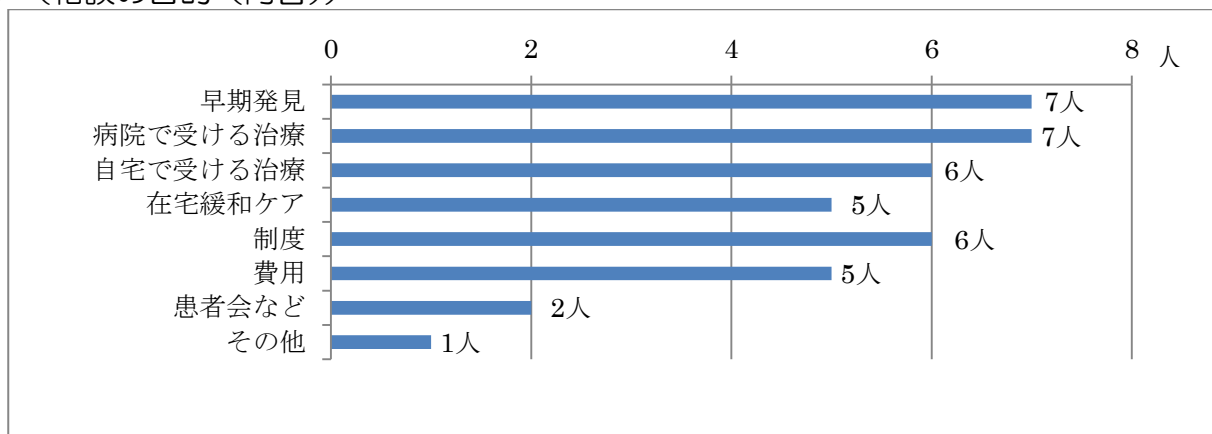


無回答 50人

② (相談窓口を知った場所)



③ (相談の目的(内容))



「がん・なんでも相談窓口」を「知らない」と回答した人が80.9%であった。
「相談窓口」を知った場所で一番多かったのは「医療機関」の76.2%、次いで「保健センターなどの行政機関」が12.7%と多く、前出の設問「宇部市がん情報ハンドブック」の入手先と同結果となった。
相談の目的については、「早期発見」が最も多く、前出の設問「宇部市がん情報ハンドブック」で役立つページと同結果であった。また、複数の悩みをかかえていることがうかがえる。

【自由記載でいただいた意見（一部を抜粋）】

○がんの予防に関すること

- 早期発見が第一だと思うので、もっと検査しやすい環境があればよいと思う
- 土、日曜日に検診を受けられるシステムを作ってほしい
- 30歳代の方にも、大腸がん、乳がん検診の助成があると若い時から検診を受ける習慣がつくのではないかと思う。
- 市から検診の受診票がくるので、行こうという気になる
- 乳児がいるので、預かってもらえるサービスがあれば、検診も受けやすいと思う
- 若い年齢でがんの死亡が多い為、がん体質、育成しない身体づくりを子供の頃から教育必須にしてほしい。

○がんの情報に関すること

- がんに対する治療とケアに力を入れている事が分かった
- がん対策についての知識が低いことに気付いた
- 色々な施設・サービスが用意されていることを知った
- 宇部市にも、たくさんの選択が出来ることに安心した
- 多くの情報をだれでも理解できるように情報をお願いしたい
- がんの早期発見やがんになりにくい身体をつくるなどの情報を発信してほしい

○がんの治療や療養に関すること

- 在宅緩和ケアを行っている開業医があることを知った、もっと広めてほしい
- 患者だけでなく、家族も長期の闘病生活で疲れる。2次災害を出さない為の施策をお願いしたい
- 緩和ケア病棟のある施設を増やしてほしい
- 医療機関の充実、心のケアをお願いしたい
- がん相談支援室のあることを知った
- 入院・治療費が高額になりやすく、就業することが難しくなった時など、経済的なサポートがあれば教えてほしい
- 医療機関が治療だけでなく、療養についてなど様々な情報を提示してくれるとよい

発行元

発行 平成27年6月

宇部市健康福祉部健康推進課

山口県宇部市琴芝町二丁目1番10号

電話 0836(31)1777

FAX 0836(35)6533